

札響くらぶ

No. 42

発行／札響くらぶ(財)札幌交響楽団内
札幌市中央区中島公園1番地15号(札幌コンサートホール内)
HPアドレス <http://members3.jcom.home.ne.jp/sakkyoclub/index.html>
Eメール sakkyoclubmail@yahoo.co.jp



会員1000人へ 「会員1人が、新会員1人紹介」 そして札響の定期を満席に！

札響くらぶは1996年創立以来、順調に発展し、会員数は2002年に500人を超え、2004年に600人、2005年に700人を超えました。しかし、ここ1年くらいは微増にとどまっています。

会員が1000人を超えると何ができるでしょうか。例えば札響くらぶコンサート(2009年復活予定)で会員1人が1人を誘えばそれだけで満席にすることができます。すごいことです。そして、次にもう一度、会員1人が、新会員1人を紹介すると会員数は2000人となり、札響くらぶコンサートは会員だけで満席にすることができます。

そこで、今回、

「会員1人が、新会員1人紹介」

する運動をいたします。

札響くらぶ入会案内パンフレットを同封いたしましたので、新会員1人(ファミリー会員を含む)を紹介してください。

そして、会員1000人を目指しましょう。

また、札響くらぶ会員の定期会員、維持会員率は30%弱です。最近、定期演奏会でソリストのアンコールがA日程とB日程で回数が違っていたり、あつたりなかったりする場合があると聞いています。2月の定期でもB日程ではアンコールがありました、A日程ではありませんでした。空席が少なく満場の拍手を受けると気持ちよくアンコールに応じてくれる

のでしょうか。

札響くらぶ会員の定期会員、維持会員率を50%に増やし、札響定期をいつも満席にしませんか。パンフレットを同封しましたので、この機会に定期会員又は維持会員を是非ご検討してください。定期会員は、1年のほかに半年間の前期と後期があり、無理なく会員になることができます。

楽譜支援金について

札響くらぶの活動として、札響に対する楽譜支援金制度を創設して2年目となります。前年度は「Favorile Italian Songs、ムーンリバー、ピンクパンサー、シュベルト／交響曲第8番、モーツァルト／フィガロの結婚、ラフマニ

ノフ／協奏曲第1番、スラブ行進曲、ダッタン人の踊り、謝肉祭、サンドペーパー・バレエ、トルコ行進曲、売られた花嫁、おもちゃ行進曲、セミラミデ序曲」などが、楽団所有楽譜として購入され、札響ポップス、10月定期、二期会の演奏会等に使用されました。

今年も皆さんからの会費500円のほか、135名もの会員の方から任意のご寄付として247,000円をいただき、50万円を楽譜購入のため支援いたしました。(購入した楽譜につきましては、総会で報告いたします) 会員の皆さんのご協力、本当にありがとうございます。

(事務局長 武藤義典)



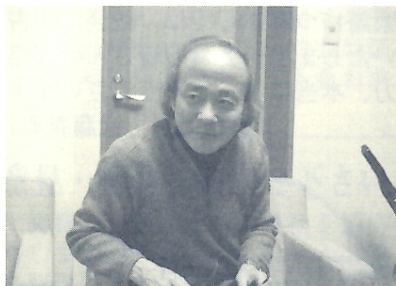
楽譜支援金で購入した楽譜には「札響くらぶ」の印が押されています

’08.4~’09.3 定期演奏会プログラムの解説を尾高音楽監督にお願いしました

’08シーズンの定期演奏会プログラムが発表されましたが、会員の皆様はもうご存知でしょうか。今回もまた意欲的なプログラムとなっていますが、その解説を1月11日、キタラに於いて尾高音楽監督にお伺いしました。

——プログラムの全体構想からお話下さい。

おかげさまで、うちのオケも常に大マエストロと言われる人にも振っていただけたところに来ていると思います。去年のマリナーさん、ボッセさんと素晴らしい演奏をしてくれたということで、今年度にはエリシュカさん、トゥルノフスキーさんやシュナイトさんという私よりもはるかに年上の指揮者をお迎えすることができるようになりました。私は今までは、指揮者としてはそれほど年寄りでもないのに責任重大みたいな感じがしていましたが、こういう巨匠達の間で挟まれて、こっちが若造として仕事ができるようなオケになってもらいたいと思っていましたから、ありがたいことと思っています。こういう三人の方、そして私の恩師である飯守泰次郎先生にもお出でいただくということで、この10年で見ると圧倒的に指揮者



の平均年齢が上がったと思います。それで、このオケがまた脱皮してくれるのではないかと考えています。

更には、来ていただく方がおやりになりたい曲と、私たちがやっていただきたいと思っていた曲が、ぴったり一致して一回、一回のプログラムも充実しているのですが、全体を見た時にも、例えばどこかでフランスものがほしいという時に高関さんのオール・ラヴェルがあったり、大事なドイツ音楽もある、私に關係の深い英国の音楽もあるという具合で、昨年以上にバ

ランスの良いプログラムになっています。普通のオーケストラと比較すると少し英国の比重が大きいといえるかもしれませんが、それは私がここにいるということによります。客演の方が私たちの希望を引き受けて下さらない限りできないことですが、結果としていいプログラムになったと思います。楽員としても巨匠達との演奏を大事にしてほしいし、今までにやったことが無いような曲やオーケストラの向上のために良い曲が入っていると思います。例えば、後で説明しますが「ピーター・グライムズ」という曲は、歌い手にとっても、合唱もオーケストラも非常に難しい曲です。これを通り越してくれたら、去年のマラー2番を通り越してくれたように、また一歩前進してくれるのではないかと考えています。

——では、各回の解説をお願いします。

4月はエリシュカ先生で、私はまだお会いしたことはありません。今でも思い出しますが、この事務局から「こういう人はどうでしょう」といって、DVDを見せてもらいました。彼が他のオケの練習をしているものでした。それは、とても正しいことを、とても丁寧に、極端に言うと先生が学生に教えるような雰囲気、いいなと思いましたが、オーケストラによってはそういうのを嫌がることがありますので、一瞬迷いました。でも、「うちは大丈夫だろう、何より音楽が素晴らしいので来てただこう」、ということになりました。それがついこの間のことのように思われます。実際に来ていただくと素晴らしい名演で、お互い相思相愛というか、楽員もエリシュカさんもとても気に入ってくださったので、首席客演指揮者をお願いしました。普通はあの位の

格の人だと、日本のオーケストラからの話となると、ある意味で精神的にもしんどいし、考える時間が必要と思うのですが、即答で「ありがたい話だ」と言っていただけました。そのマエストロがシーズンの幕開けを飾って下さるというのは、とても素晴らしいことだと思います。

曲目としては、やはり、先生にはドヴォルジャークをやっていたきたいと思っていました。7番、8番、9番はよく演奏されますが、6番はすごくいい曲なのに取り上げる回数が少なく、うちも実演は1回か2回だと思います。その6番を正調でやっていただけることになりました。また、ヤナーチェクとドヴォルジャークは同じ国の人とされていますが、実はボヘミアのドヴォルジャークとは違い、ヤナーチェクはもっとリズムカルな言語の地方の人です。私たち日本人は同じかつてのチェコスロバキアと思っていますが、その違いを一番よく知っていらっしゃる方にドヴォルジャークとヤナーチェクの音楽はこう違うのだよ、と教えていただけることは本当に素晴らしいと思います。二曲の間に伊藤恵さんによる有名なモーツァルトのピアノ・コンチェルトを挟み、実によくバランスのとれたプログラムになっていると思います。

5月は私ですが、実は去年4月に日本フィルの定期で演奏したのと同じプログラムです。ソプラノも同じ天羽さんでした。自分としても去年の演奏会ではとても大事なもので、すごく上手くいきました。これは日本フィルの企画委員会で練られたプログラムで、彼等が、「これは絶対尾高に」、とってくれたので振ることができました。前からマラー4番はよくとりあげてきましたが、このモーツァルトの40番との組み合わせは

思いつきませんでした。モーツァルトとマーラーという二人の大天才作曲家の、片方はト短調、一方はト長調で、モーツァルトの苦悩的なところから始まって、激しさがあって、一曲が終わるとマーラーになって短調から長調に変わり、最後は天国へ行くという、本番をやっていて、昇華されていくような実にいいプログラムでした。札幌でもやってみたいなと思っていたのですが、実はその演奏会にうちの宮下事業部長が来ていて、私が言い出す前に彼が「これ、もらいましょう」と言って、二人とも札幌にむいたプログラムと思っていたわけです。マーラーの4番は私にとってはマーラーの中でも大事な曲で、ウィーンに勉強に行つてスワロフスキーに最初に習った曲であり、サバリッシュ先生の手ほどきを受けた曲であり、札幌に81年から86年までいた時の最後の定期の曲であり、英国公演もこの曲でした。初めて、モーツァルト40番とマーラー4番という組み合わせを札幌でできることを、自分でも大いに期待しています。

6月は高関さんで、ロシアの素晴らしい名曲二つです。ピアノのリフシツツさんはすごく上手いんだそうです。高関さんが誰かの代役で行った時に、リフシツツさんとブラームスのコンチェルト1番で共演したそうです。すごく上手くて、ぜひこの人とやりたいということで、テクニックが高い人ならぜひ名曲のラフマニノフの3番を、ということになりました。ロシアでラフマニノフと来れば、高関さんとしては「春の祭典」をやりたい。高関さんはいろんな所で振っているし、早稲田のオケで欧州旅行もしてるし、桐朋のオケでもとりあげていて、お得意中のお得意なんです。だから、彼は前からこの曲をやりたいかかったのですが、岩城先生や秋山先生もお得意だったので、なかなか入り込めなかったのです。で、ここ数年は札幌も演奏していなかったのですが、近年PMFで演奏され、曲としても

皆さまにかなり馴染みも持たれてきているので、ここは、このロシアのプログラムでいこう、ということになりました。

9月は「ピーター・グライムズ」ですが、実は、10年前私が読売日本交響楽団の常任を辞める時に、晋友会の合唱と、ソリスト6人を英国から呼んでそれ以外のソリストは日本人という混合でやりました。あと、オペラの指導ということでロイヤル・オペラの人を呼んで、その人の指導でやりました。それはかなりいい出来だったと思います。以来、その時の歌手の連中とむこうで会うと「ああ、いい思い出だった」といいます。何を言いたいのかということ、日本人が一番自分達のことを理解してくれているということです。日本人は第一次世界大戦の後英国からものを学びました。郵便ポストが赤いのも、みんな英国の影響です。なおかつ、両方ともに島国で勉強が発達していて、精神構造も少し似ていますね。村八分というのも、あれは島国独特の現象ですから。「ピーター・グライムズ」は名作だとヨーロッパでも言われますが、ピーター・グライムズの辛さをより理解してくれるのは日本人だと、英国人ソリストの皆が言います。私としてもまたやりたいなとずっと思っていたのですが、「ともかくお金がかかるし、難しいし、歌える人がなくて、合唱が難しくて東京から呼ぶわけにもいなくて」と言っていた時に札幌合唱団を作ろうということになりました。札幌合唱団の最初が一昨年「第九」でしたが、とてもみんな一生懸命にやってくれました。これはいけるかもしれないと思ひまして、いろいろ考えるうちに、私の中で「オール日本人でどこまでやれるか、やってみようか」という気持ちが起こってきました。「やっぱり無理だよな」と、何回も心の中で挫折しかけてきましたが、「よし、いこう」と決断しました。それから大変でした。歌手の人選にしても、「歌えません、私には無理です」という人もいて、何よりも

英語で歌える人が少ないのです。ほとんどのオペラがイタリア語かドイツ語ですから。それでもやっと、素晴らしい歌手を集めることができ、合唱も長内先生に指導をお願いしたところ「わあ、大変だ」といいながらももうある部分までは譜読みが終わっています。ちゃんとした練習は2月からかかりますが、4月からは歌手の個人練習が始まって、オーケストラも、普段の倍以上練習しますし、いいものになると思います。

ご心配かもしれませんが、ちゃんと字幕が出ます。非常に深い、中身の濃いオペラですから、いきなり本番を聴いても字幕を読むだけで終わってしまうという可能性がありますので、ぜひとも予めDVDで見えておくとか、CDを聴くなり、あらすじを読んでおくなどの準備をしていただければと思います。歌舞伎を見に行く時でも、何も知らないで行ったのではやっぱり分からないわけですから。20世紀の英国の「勸進帳」のようなものですから、少し勉強してきていただけたらより楽しんでいただけると思います。

10年前の上演で手伝っていただいた新通英洋さんという指揮者がいて、今回もソリストの人選をしている段階から参加してもらっています。彼のもとには10年前に私とFAXでやり取りをしたものが、資料としてすっかり残っていました。「ここはこうなるはずですよ」という具合に、細かな部分まで全部残っていました。彼もあれから実績を重ねていますので、いまさら副指揮者をお願いしては申し訳ないかな、と思ったのですが「ぜひやりたい、実は記録もそっくり残っているのですよ」ということで、うちの事務所のスタッフもびっくりしました。彼はイングリッシュ・ナショナル・オペラで勉強してもいますから、英語についても確かですし、そういう力強いスタッフで取り組んでいます。

10月のトゥルノフスキーさんは、ウィーン・フィルの首席ファゴット奏者のトゥルノフスキーさんの

お父さんです。とても素晴らしい方ですが、政治的なことからチェコでは活躍できなかった方です。上手く立ち回らなかった人でした。本来はチェコ・フィルの指揮者になって当然という方です。今はもうそういう政治的なことはありませんので、いろんなところに引っ張りだこのようです。一昨年でしたか、PMFでトゥルノフスキーさんが私の楽屋にお出でになって「僕の親父も指揮をしてるんです…」とおっしゃるので、勿論存じ上げていますよといいました。群響を長いこと振っていましたから、高関さんとも関係があります。前から考えていましたが、今回いい時期にぴったり合っとうれしく思っています。4月に続いてドヴォルジャークで、交響詩「野鳩」というのは、後期の作品ですが完成されたいい曲です。シューマンのチェロ協奏曲は、素晴らしい曲なのにいい人が弾かないととても無理、という曲で、プログラミングする時いつも「誰が弾くのだろうね」と思う曲です。今回はモーザーさんというすごい人が来てくれます。ブラームスの4番については、私の中で前のベートーヴェン・チクルスのように何年か後に自分がブラームスを、という気持ちがあったので、ちょっと躊躇しましたが、この人ならお願いしたいと思いました。トゥルノフスキーさんのお得意中のお得意だそうです。このプログラムは因縁めいていて、ブラームスとドヴォルジャークはとても仲が良く、ブラームスがいろんな面でドヴォルジャークを援助しています。二人とも車が好きでした。そのブラームスが恋したのがクララ・シューマンでした。ですから、シューマンを挟んでドヴォルジャーク、ブラームスというのは、その時代の雰囲気そのまま出てくるようです。

11月は私です。4月ころにエルガーの3番のCDが発売になります。その発売に合わせて、5月あたりにエルガーという話も最初はあったのですが、以前に東京公演

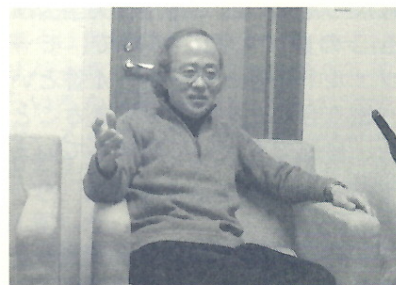
でエルガーの1番をやった時に、評論家を含めた多くの人から2番も3番もと言われ、どうせなら東京公演に合わせた方が上手く行くだろう、ということで11月になりました。一般的にするため、とてもポピュラーなコンチェルトを、有名なソリストを呼んで演奏して、その後でエルガーをという案も出ましたが、今の私たちのありのままを見ていただくために、ソリスト無しのオール英国プログラムとしました。

「タリスの主題による幻想曲」は、例えようもない程美しい曲です。弦楽器の良さがすごく出る曲です。以前に、ギターでオルガンの演奏台のところに第二オーケストラを置いてやりましたが、すごく効果があって、この札響の弦のサウンドを東京の人に聴いてもらいたいと思いました。東京のオーケストラに比べて、力強さという点では多少及ばないが、美しさという点では相当のものだと思いますので、これで勝負しようと思います。また、ディーリアスの「楽園への道」という曲は、二人の恋が上手くいかなくて天国に向かって行くという素晴らしい曲で、これは振っていて涙が止まらない曲です。ですから、この三曲は私自身が一番うれしいのかもしれませんが。

12月は高関さんで、先日も二人でこの曲について話しました。オール・ラヴェルなのに「ボレロ」が無いと感じるかもしれませんが、ワルツがありスペインがありと、非常に理にかなったプログラムだと思います。ラヴェルさんとしては、絶対に「ボレロ」よりもこれらの曲がいいと思っています。確かに「ボレロ」は人気の高い曲ですが、テーマが二つしかない。それに比べてこれらの曲は、本当に細かくいろんなニュアンスが出ていて、去年私のドビュッシーを聴いて下さった方にはいい意味で勉強にもなると思います。同じフランスの作曲家でありながら、ドビュッシーの世界とは異なり、ラヴェルさんは少し

バスク地方の気があって、オーケストレーションも違うということがよく分かると思うのです。

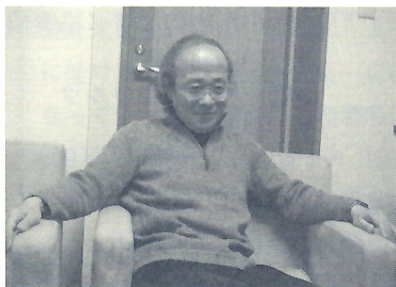
館野泉さんという方は、私にとっては恩人中の恩人なのです。私が東京フィルで苦勞していたころに、外国のオーケストラから申込みがあっても頑なに行かなかったのです。私は「外国に行って名前を上げる気はないし、今の東京フィルを離れられない」、とずっと頑張っていたのです。そうしたら、館野さんがある時に日フィルで旅行した時に「自分の何十周年だかの記念で、ヘルシンキ・フィルが特別演奏会をやってくれる。ついては、指揮者は誰でもいいと言われているのだけど、振って下さい」と言われました。私は、同じことを繰り返してお断りしました。そうしたら、一晩かかって飲んで説得されて「駄目ですよ、外に出て下さい」と言われ



ました。そうして、私の初めての外国での出演がヘルシンキ・フィルになりました。そういう恩人です。ですからそれ以来、東京フィルの演奏旅行も彼にソリストをお願いしたり、すごく長いお付き合いです。あの方と一昨年の東京公演をご一緒出来て、ノルトグレンを演奏出来たのはものすごくいい思い出です。右手も大分動くようになったようですが、この間お会いした時に、どうですかとお聞きしたら、やはり、ちゃんと弾くというのは無理ですということでした。ラヴェルの「左手のための協奏曲」は、ジャズ奏者のような力強い奏法でなければ面白味がない。女性やか弱い若い男性では駄目なのです。そこへいくと、館野さんは泉という女性的な名前に似ず、非常に男性的で手も大きく、グリーグのピアノ・コンチェルトで

もオケの音が吹き飛ばされるような人ですからいい演奏になると思います、できれば私が一緒にやりたいと思うくらいです。

1月はいよいよ私の先生が登場いたします。私の先生は斎藤秀雄先生ですが、斎藤先生のレッスンの前に下見というのが高校の時にあって、その時の先生が秋山先生と飯守泰次郎先生でした。二人ともピアノがお上手で、斎藤先生のレッスンを受けに行くときオーケストラ・パートのピアノは秋山和慶、飯守泰次郎両先生が担当されていて、すごく贅沢でした。飯守先生を、私はすごく尊敬していて、ドイツでオペラハウスにお入りになった時にも何度もお会いしに行っていますし、パイロイトでもお会いしています。オランダで指揮の先生をなさったりしていたのですが「先生日本でやって下さ



い」とお願いしたのは私です。外国で活躍しておられる方は、意外と日本に帰ることを怖がると思いますが、先生も「僕なんか呼んでくれるところはないよ」なんておっしゃっていましたので、「冗談じゃありません、先生に帰っていただいたら日本も変わります」、ということをお願いしました。それから暫くしてお帰りになり、シティ・フィルも関西フィルも大成功でした。前から、ぜひ札幌でも振っていただきたいと思っていて、「ワーグナーを」とお願いしていました。しかし、私自身も英国ではワーグナーをやっている、プロムスでの演奏はCDとして今も販売されるなど好評もいただいておりますので、札幌でもいつかやらなければならないと思っていました。そのため飯守先生には、「すみませんが今回はワーグナーをメインでは

なく」とお願いしました。横山幸雄さんと共演される伊福部さんの曲は大変難しいのですが、関西フィルでこのコンビで名演をしたそうです。横山さんがいるならこの曲にしようということになりました。ピアニストが良くないとつまらない曲ですから。私がびっくりしたのは、サン＝サーンスの3番です。飯守先生からこの曲が出てくるとは、夢にも思っていませんでした。そうしたら、飯守先生が事務局に「僕にもたまには派手に終わらせてよ」とおっしゃったそうです。この曲は、私は若いころにはやりましたが、今はやっていません。ギターで一度は、と思っただけなのですが、今回は飯守先生がなさいますし、秋山先生はギターのオープンの時になさっていますから、私の代りに二人の私の先生がなさって下さっていることになります。

2月は私で、ブルックナーです。3番のワーグナー風というのをやったらどうだろうという話があって、私もその気持ちになっていたのですが、実はブルックナーの3番にはたくさんの版があって、版によってまるで違う曲なのです。それで迷ってしまって、ブルックナーは選曲が間に合いそうもないからやめようと思いましたが、しかし私は、英国と関係する前は、後期ロマン派が自分の勝負のものと思っていましたから、ワーグナー、リヒャルト・シュトラウス、マーラー、ブルックナーはいつも私の軸と思っています。そうすると、マーラーと英国ものが終わっていると、やはりブルックナーだろうと思い、それならば4番だろうということになりました。私は、4番は日本のオケではもう20年以上振っていません。ホルンの橋本君が、病気で入院を繰り返しましたが、退院する度にますます男らしくなり、福田君と金管の軸になって頑張ってくれているので、じゃあ彼で4番をとという気持ちもありました。私は、ブルックナーの前半にはよくメンデルスゾーンやモーツァルトを演奏するのです

が、ロンドン・シンフォニーのプログラムではショスタコーヴィッチを組み合わせていました。終わってから楽員に「組み合わせがおかしくなかったか？」とたずねると、「全然おかしくない」という返事でした。それならば、前からプロコフィエフのヴァイオリン・コンチェルトはぜひやりたいと思っていたので、ショスタコーヴィッチよりもさらにブルックナーには合うだろうと思ったのです。伊藤亮太郎君が、きれいな音でテクニックもあり、まだ定期でのソロ・デビューはしていなかったので、ここでと思いました。でも、本人に弾く気がなければどうしようもないので彼にたずねると、石川祐支君の時と同じように、「一番好きな曲です」ということでしたので、決まりました。

3月のシュナイトさんは、今では数少ないドイツのお歳をめした指揮者です。お歳をめした方皆さんは体が不調だったり、もう振らないとおっしゃっています。シュナイトさんは、神奈川フィルの音楽監督をなさっていますが、コーラスも、ドイツ音楽も素晴らしいし、芸大の先生もずっとなさっています。私も芸大で教えていますから、シュナイトさんのおっしゃることなんかを聞いて、これはすごいつわものだ、と思っていました。ものすごく厳しいらしいですよ。エリシュカさんやトゥルノフスキーさんは「いい人」で、オーケストラもいい気持ちで演奏出来ます。シュナイトさんは厳しくて、ひょっとすると、緊張してしまうかも知れません。シュナイトさんは、札幌にとっては初めて経験する、厳しいドイツの正統派の指揮者かもしれません。日本のほとんどのオーケストラはドイツ人に厳しく鍛えられてきましたので良い経験になります。そういう指揮者の方をお迎えすると、これはドイツの正統派の曲しかあり得ないということになります。ちょうど、神尾さんがチャイコフスキー・コンクールで優勝されまして、意向を伺うと

「一番弾きたいのはブラームスです」ということでしたからそれで決まりました。後半は、シュナイトさんのご意向で「田園」をやりたい、ということでした。「田園」は、私はまだ数回しか振って

いませんが、本当に一番難しい曲の一つで、ドイツ人の持っている精神性といいますか、戦争の後の平和を知らなければ演奏できるものではない、とドイツでは言われています。シュナイトさんの「田

園」は、私たちではなし得ない「田園」になるのではないかな、と思います。

——ありがとうございました。

(副会長：佐藤 良次)

2008. 4～2009. 3 札幌定期演奏会プログラム

■第508回定期演奏会 ～R. エリシュカ

首席客演指揮者就任記念公演

4月11日(金) 19:00 12日(土) 15:00

指揮：ラドミル・エリシュカ (首席客演指揮者)

独奏：伊藤 恵 (ピアノ)

曲目：ヤナーチェク／タラス・ブーリバ
モーツァルト／ピアノ協奏曲第24番
ドヴォルジャーク／交響曲第6番

■第509回定期演奏会

5月23日(金) 19:00 24日(土) 15:00

指揮：尾高 忠明 (音楽監督)

独奏：天羽 明恵 (ソプラノ)

曲目：モーツァルト／交響曲第40番
マーラー／交響曲第4番

■第510回定期演奏会

6月20日(金) 19:00 21日(土) 15:00

指揮：高 関 健 (正指揮者)

独奏：コンスタンチン・リフシツ (ピアノ)

曲目：ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第3番
ストラヴィンスキー／
バレエ音楽「春の祭典」

■第511回定期演奏会 (特別企画)

9月19日(金) 18:30 21日(日) 14:30

指揮：尾高 忠明 (音楽監督)

テノール：福井 敬

ソプラノ：釜洞 祐子 ほか ソリスト11名

合唱：札幌合唱団 ほか

曲目：ブリテン／歌劇「ピーター・グライムズ」
(演奏会形式)

■第512回定期演奏会

10月10日(金) 19:00 11日(土) 15:00

指揮：マルティン・トゥルノフスキー

独奏：ヨハネス・モーザー (チェロ)

曲目：ドヴォルジャーク／交響詩「野鳩」
シューマン／チェロ協奏曲
ブラームス／交響曲第4番

■第513回定期演奏会

11月14日(金) 19:00 15日(土) 15:00

指揮：尾高 忠明 (音楽監督)

曲目：ヴォーン＝ウィリアムズ／

タリスの主題による幻想曲
ディーリアス／楽園への道
エルガー(ペイン補作)／交響曲第3番

■第514回定期演奏会

12月5日(金) 19:00 6日(土) 15:00

指揮：高 関 健 (正指揮者)

独奏：舘野 泉 (ソプラノ)

曲目：ラヴェル／スペイン狂詩曲
左手のためのピアノ協奏曲
道化師の朝の歌
高雅で感傷的なワルツ
ラ・ヴァルス

■第515回定期演奏会

1月23日(金) 19:00 24日(土) 15:00

指揮：飯守 泰次郎

独奏：横山 幸男 (ピアノ)

曲目：ワーグナー／

歌劇「さまよえるオランダ人」序曲
伊福部 昭／ピアノとオーケストラ
のための「リトミカ・オステイナータ」
サン＝サーンス／交響曲第3番「オルガン付」

■第516回定期演奏会

2月6日(金) 19:00 7日(土) 15:00

指揮：尾高 忠明 (音楽監督)

独奏：伊藤 亮太郎

(ヴァイオリン・コンサートマスター)

曲目：プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲第2番
ブルックナー／
交響曲第4番「ロマンティック」

■第517回定期演奏会

3月20日(金) 19:00 21日(土) 15:00

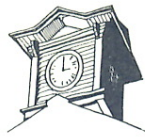
指揮：ハンス＝マルティン・シュナイト

独奏：神尾 真由子 (ヴァイオリン)

曲目：ブラームス／ヴァイオリン協奏曲
ベートーヴェン／交響曲第6番「田園」

札幌物語 41

500回定期を迎える 札幌の街 (その3)



第300回定期演奏会(1989年3月)前後は札幌にとって大きな前進の時期だったようです。'88年には札幌市の地下鉄東豊線が開通しました。また、北海道国際音楽交流協会(ハイメス)、北海道音楽団体協議会の2つの団体が発足。北海道音楽団体協議会は後にSTP(札幌シアターパークプロジェクト)に発展改称し札幌コンサートホール建設市民運動を起こしました。札幌定期演奏会の会場に用意された署名簿と100円募金袋を定期会員の皆さんが奪うように受け取り、演劇関係者も一緒になって2ヶ月間で6万人の署名、600万円の運動資金が集まり、1990年には札幌市の予算に「札幌市コンサートホール」調査費が計上され、札幌にコンサートホール実現を待っていた市民の熱意が凝縮されて実ったのが札幌コンサートホール Kitara です。その後、更

に Kitara のオルガン設置が問題になり再び市民運動が起こり、市民の切望した素晴らしいオルガン(フランス、ケルン社製)が設置されました。

一方、ハイメスは札幌で国際音楽祭を開催しようと気運を盛り上げる目的で立ち上げられた団体で、'90年に札幌市が中心になって開催された「国際チューバ・ユーフォニアム札幌大会」を全面的に支援し、その後、北海道にゆかりのある若い音楽家を支援するためハイメス・コンクールを開催し第1位の人に海外留学の支援を続けております。このコンクールで入賞したアーティストがいまや国内外で大きな活躍をしています。また、姉妹都市との音楽交流も盛んに行い、20周年を迎える今年には8月に記念事業を行い、姉妹都市ロシアのノヴォシビルスクから優れたヴァイオリニストを招聘して

特別編成のハイメス・オーケストラと共に Kitara 大ホールで記念演奏会を開きます。この2つの団体は側面からの札幌応援団として札幌の音楽シーンを支え経済界の人たちの支持を得て来ています。

1990年には「日本企業メセナ協議会」が発足、この年L.バーンスタインの提唱でPMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)第1回目が札幌で開催されました。この年に誕生した「日本企業メセナ協議会」の認証事業第1号に選ばれました。また、札幌では札幌時計台の向かいにある札幌MNビルが完成し、3階に発足したばかりの「札幌市国際プラザ」が入居、6階にはSIS(札幌インターナショナル・スペース)が出来て国際交流を行うNPO法人などの団体が利用しています。

'92年に札幌は東アジアのツアーに赴き、2年後に再び同じ地域へ公演ツアーに行きました。'90年は札幌が国際音楽都市として大きく変貌を遂げようと動き出した年と言えましょう。[続く]

(竹津宜男)

楽員さん出演 コンサート案内

みんなで応援しましょう(詳しくは札幌ホームページで)

■藤原靖久&武藤厚志

Percussion Duo Concert

4月13日(日) 13:30開演

場所: Kitara 小ホール

出演: 武藤 厚志(札幌打楽器首席)

藤原 靖久(札幌打楽器副首席)

小野 由恵(ピアノ)

後山 美菜子(ピアノ)

曲目: バルトーク/2台ピアノと打楽器のためのソナタ

ボルボウダキス/コロクロノスI

藤原 靖久/グルーヴィンティン

プスの主題による変奏曲 他

料金: 3,500(一般) 3,000(大学生以下) 全席自由

問合せ: オフィス・ワン 011-612-8696

■三瓶佳紀 クラリネット・リサイタル

4月15日(火) 19:00開演

場所: Kitara 小ホール

出演: 三瓶 佳紀(札幌クラリネット首席)

岡本 孝慈(ピアノ)

曲目: プラームス/クラリネットソナタ 第1番、第2番 他

料金: 3,000(一般) 1,000(高校生以下) 全席自由

問合せ: オフィス・ワン 011-612-8696

■オーボエとピアノの世界

5月6日(火・祝) 19:00開演

場所: 札幌時計台ホール

出演: 岩崎 弘昌(札幌オーボエ首席)

前田 朋子(ピアノ)

曲目: プーランク/即興曲集より、オー

ボエソナタ

フォーレ/ノクターン第4番

サン＝サーンス/オーボエソナタ

ラヴェル/水の戯れ

組曲「マ・メール・ロワ」

道化師の朝の歌

料金: 2,500(一般) 1,500(学生)

全席自由

問合せ: 011-594-2636

■Mayumi Vol. 2

6月26日(木) 19:00開演

場所: ザ・ルーテルホール

出演: 大平まゆみ(札幌コンサートマスター)

浅井 智子(ピアノ)

曲目: ドビュッシー/ヴァイオリンソナタ

サラサーテ/「カルメン幻想曲」

ラヴェル/ヴァイオリンソナタ

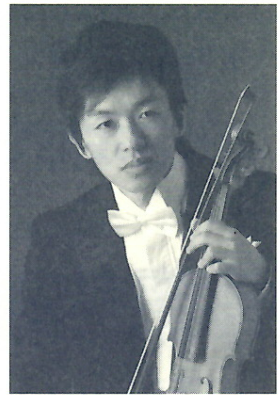
料金: 3,500 全席自由

問合せ: エム・ムートン 011-667-0298

コンマスに聞く

札幌交響楽団 コンサートマスター

三上 亮さん
み かみ りょう



© MASAHIDE SATO

三上 亮 コンサートマスターのプロフィール

1976年10月生まれ。95年東京芸術大学入学。安宅賞受賞し99年首席で卒業。98年日本音楽コンクール第2位。01-03年米国南メソディスト大学メドウス音楽院に留学。04年ブリティッシュ国際ヴァイオリンコンクール特別賞、05年ストラディヴァリウスコンクール第2位。04-07年スイス・ローザンヌ音楽院、06-07年メニューイン国際音楽アカデミーに留学。これまでに景山誠治氏、エドワード・シュミーター氏、ピエール・アモイヤル氏、アルベルト・リシー氏に師事。ソリストとしてローザンヌ室内楽団、東響他と共演やリサイタル出演のほか、エネスコ音楽祭、サイトウキネンフェスティバル、東京のオペラの森音楽祭など多数出演。札幌とは04年10月、尾高忠明指揮で名曲シリーズコンサート等にゲスト・コンサートマスターとして出演。07年7月、同じく尾高指揮で、帯広公演、PMFピクニックコンサートのゲスト・コンサートマスターを務めた。07年11月札幌コンサートマスターに就任。

昨年11月、札幌定期演奏会でデビューされたコンサートマスターの三上 亮さんに、1月14日『Kitaraのニューイヤー』コンサートのゲネプロ終了後、キタラでお話をうかがいました。

けっこう、マイペースなんです

——札幌入団までの経緯は

2006年の9月頃に札幌からお話がありました。留学があと1年ということで、アメリカに行くかスイスでやっていくか迷っていた時期でした。僕の中では活動は日本をベースでという考えがあったので、このお話はいいチャンスかもしれないと思いました。また、オーケストラのメンバーに石川君（札幌チェロ首席）や大森さん（札幌第2ヴァイオリン首席）、伊藤亮太郎君（札幌コンサートマスター）など知っている人が結構いたので、日本で活動を始めるにはとてもいいなと考えました。ただ、すんなりと決めたわけではありません。北海道ということもあったし、そのときはまだ、自分自身、具体的に何がやりたいかということが決まっていなくて、オーケストラのコンマスはおそらく自分と一番縁のない職業だと考えていました。自分にはあってないなあと考えていたので、はじめは抵抗がありました。でも、よく考えてみると自分を成長させるのにもよいだろうし、1週間くらい考えて迷いはなくなりました。

——入団前の札幌に対するイメージは

札幌の演奏を初めて聴いたのは2004年の名曲のときです。そのときは、自分はなかで弾いていたので鑑賞する余裕はほとんどありま

せんでした。でも、はじめで若々しい演奏をするなというイメージはありました。入団してみて、あらためて透明でクリアな音だということは感じますね。個人的にはもうちょっとクセがあってもいいんじゃないかとも思うんですけど、ドヴォルジャークのCDを聞いてみても、よくもまあ、あそこまで綺麗に整えたなあと感じます。

——コンサートマスターのお仕事はどのようなものですか

ステージ上では、指揮者と周りの人たちとの仲介役というか、伝達する要だと思っています。指揮者がこうしたいというところを、いろいろな形で、自分なりの方法で伝えることや、練習前に弓使いを決める事などだと思っています。

——コンサートマスターとして苦労していることは

僕の長所でもあり、短所でもあると思うんですけど、結構マイペースなんです。だから、大変なことでもあまり深く受け止めないで、流しちゃってるかもしれません。でもまだ2ヶ月ほどですから、本当に大変だったということはなかったように思います。デビュー公演のとき（11月定期演奏会：曲は武満徹とドビュッシー）は難しい曲で、ソロもあり、スコアを勉強するのが大変でした。これからもっと大変なことがあるんだろうな、とは思っています。

何でもやりますよ

——好きな作曲家は

好きなのは、簡単に言うと濃い作曲家です。近代ですね。今までやった中では、ドビュッシーが好きですね。デビュー公演もドビュッシーだったので入ってはいきやすかったのですが、好きとか嫌いでは片付かない部分があるので、難しかったです。逆に、シンプルなのが苦手な方だと思います。古典とか。誰でもそうだと思うんですけど、一番難しいのはシンプルなもの、それが僕にも当てはまるということです。これから勉強だと思っています。



——影響を受けた人は

たくさんいますが、スイスでの先生のアモイヤル先生です。教え方がすごいというよりは、カメラータ（15人くらいの小編成の弦楽アンサンブル）で弾く機会があったとき、アモイヤル先生の生の音を間近で聞き、本当に感動しました。ああいう音を出したいと強く思いました。僕は、頭の中にもいつも温故知新という言葉があるんですが、昔の演奏家の音が好きなんです。そういう意味ではきらびやかな音というより、土臭い、甘い感じもあるし、田舎くささも

ほしい。昔の演奏家のCDは、スイスにいたときにマニャックな友達と二人いて、その友達にたくさん聞かされました。それで、はまった。

——半分くらいは札幌を離れて演奏活動するというスタイルですか

そうですね。留学から帰ってきたばかりで、意外とフリーな時間が多いんですけど、アンサンブルが3、ソロが1くらいで活動します。6月には六花亭真駒内店のホールでギターとデュオをやりま。そのほかにもやっていきますのでよろしくお願ひします。

——セールスポイントは

札幌を良くするための手助けができればと思っています。若さがあるというところが強みでしょうか。セールスポイントはこれから見つけていきます。コンマスは札幌の顔ですので、機会があればいろいろな場所に出向いていきたいと思っています。

——やって見た曲はありますか

やれといわれたら何でもやります。せっかく札幌にきたので、シベリウスなんか、やってみたいですね。

——ブログをなさってますね

近いうちにホームページも作ると思っています。ブログも最近まめに更新していますので読んでみてください。

——演奏後の聴衆の声については

ブログの書き込みを見ても、第9の演奏に対してほとんどが良かったといってくれていますが、そうでない書き込みもあって。どんないい演奏をしても、みんながみんな、いいとは言わないと思うんですよ。それが音楽だし。ひどい演奏だった、最悪だったと言われても一喜一憂する必要はないと思います。そういう捉え方をする人もいるんだ、という程度に聞いています。そうでないと、個性豊かな演奏というのがなくなってしまうんです。ただ、反響(声)はたくさんいただきたいと思ひます。ステージ上での自分が冷静でなくともあるわけで、聴衆の声はどういう演奏をしたのかを知る、良い

バロメーターになると思ひます。

スープカレーに、はまっています

——休みの日は、どう過ごされていますか

リサイクルストアに行つて、家具を物色しています。実は11月に引っ越しました。それで、リビングはソファは買ったんですが、前に置くテーブルがなく、ダンボールがおいてあるんですよ。すぐには買えませんが、統一性をもたせたくて。初めて長く住む家なので、凝つてみたいと思ひます。その結果が、ソファにダンボール、食卓に椅子なしという状態です。

——スイスでも生活なさっていますが、北海道の冬はどうですか

スイスに留学していましたが、僕のいたところはあまり雪が降らないところでした。南に湖があつて、比較的気候は緩やかでした。札幌では、雪のせいで道がツルツルなところが大変ですね。昨日は派手に1回転びました。そして、うちの前が坂になつていて、そこで滑っています。それと、お店に入ったときに「今夜は一段としばれます」と放送があり、北海道だなあと感じました。

——北海道の食べ物はいかがですか

スープカレーに、はまりました。この2・3ヶ月でポイントカードがたまっちゃつて、ただで食べられちゃうくらいです。おいしいものを食べ歩くのは好きですね。本当は自炊しようと思ひて、いろいろ道具を揃えたんですけど、1人だとたくさん作るのもばからしいし、練習が終わつておなかのすいた状態では作る気にもならない。それでつい外で食べちゃうんです。僕は一度気に入ると、その店に何度も通ひ続けるんです。おいしいとんかつ屋もあるんですが、今はスープカレーです。いろいろな種

類があつて。実はまだ札幌に就任する前の事ですが、7月にPMFに出演するためにスイスから帰つてきたんです。その帰りの飛行機の中で、北海道のグルメ特集をやつていて。そのときに、ジンギスカンなんかとともにスープカレーが出てたんです。で、スープカレーってなんだ、と思ひて。食べ方とかいろいろあつて。札幌に行つたら食べてみようかと思ひていました。札幌では石川君のところに泊めてもらつていたんですが、そのとき彼がスープカレーを食べに行こうつて。エッ、この前見たやつだ。それで、たまたま連れてつてもらつた店がものすごくおいしくて。それではまりました。実は、ジンギスカンも札幌に来てはじめて食べました。来て一ヶ月くらいで、一通りメインのところは連れて行つてもらいま



した。ホヤにも挑戦しましたが、・・・で感じでした。でも、食べ物に関しては、舌鼓を打ちつています。

——札幌くらぶにひとこと

ソロやアンサンブルでは、こういうファンクラブとじかに情報交換したりというのは、よっぽどのスターでないと考えられませ。ですから、常にファンクラブと情報交換しあつていいものを作つていくというのは本当に良いことだと思ひます。まだ、入団したばかりで、右がようやくわかる程度なんです。どうぞ、応援よろしくお願ひします。

(深井雅昭、三野麻紀、松尾英樹)

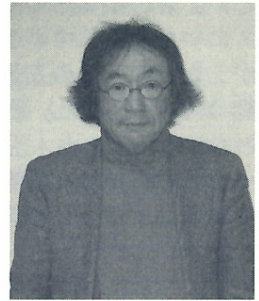
三上亮さんの日常は、ご自身のブログ **晴れときどきヴァイオリン(三上亮の不定期日記)** <http://blog.goo.ne.jp/mkry2001>

に書かれています。札幌くらぶのホームページからもリンクしています。楽しいブログです、一度、のぞいて見てはいかがでしょう。

Player's talk 1

ファゴット
いちのへ
一戸

てつ
哲



—ご出身は

東京の世田谷です。父親がNHKに勤めていた関係で転勤も多かったです。四国の松山や広島にもいました。

—音楽との出会いは

小さい頃は喘息もちだったんです。小学3年のときにあまりに咳き込むので母親がとても心配しまして。たまたま新聞で、スイスの結核療養所では症状が安定するとリハビリのためフルートを吹かせるという記事が出ていました。それで、母がお友達の林りり子さんに相談したら「私の弟子でいい人がいるから、そちらで習わせたら」ということになり、フルートを始めたわけです。松山にいたときです。ずっとフルートをやっていたんですが、中2の春休みにファゴットを始めました。そのときは広島に住んでいましたが、たまたま演奏旅行中の林さんが広島の家遊びにいらして、いい先生を紹介するのでファゴットをやってみたらと進められ。それがファゴットとの出会いです。それで、桐朋学園の高校に入りました。

—学生時代は

実は大学へは行ってないんです。ピアノをやるのがいやで、桐朋学園の聴講生になりました。聴講は1年でしたが、その頃、日フィルの연구원として日フィルにも所属していました。当時は室内楽を友達と組んでやってたり、結構忙しかったんです。次の年、札幌で欠員ができるので行って見ないかとお話があり、オーディションを受けたら合格しました。それで、1970年の4月1日に札幌入団となりました。当時、直前まで仕事をしてましたから、飛行機で札幌に来たんですが、それが3月30日のことです。皆さん、覚えてらっしゃいますか。次の日31日に「よど号ハイジャック事件」が起こったんです。テレビでその事件を知り、大変驚きました。札幌に着いた日は、雪が降っていました。東京では桜が咲いていたのに。えーっ、という感じで本当に驚きました。当時

の札幌駅はまだ寂しくて、雪も降ってて、この世の果てに来ちゃったなと思いました。

—当時の札幌は

札幌ができて9年目だったんですね。シュヴァルツさんが就任した次の年で。まだ演奏会の数があまり多くなくて、ただ、春と秋にオペラでの演奏旅行がありました。東北地方が主でしたが2・3週間の旅行でした。二期会の人たちと一緒に旅行して、面白かったですよ。80年代まで続きましたね。こんなことがありましたよ。まだ息子が小さい頃、長い旅行があったんですが、終わってただいまと帰ると息子出てきて、「ママ、どこかのおじさんが来たよ」と。すっかり忘れられていました。当時は、西日本にも、返還直後の沖縄にも行きました。沖縄では泡盛を呑みすぎて腰が抜けたこともありました。

—今迄で、思い出深い人は

アンドレ・ワッツがキャンセルになってフォルデスというピアニストが来たんです。本当に音が綺麗で。ブラームスのコンチェルトをやったんですが、練習場では皆すごいと、聞きほれちゃいました。入団した当初のことです。指揮者ではシュヴァルツさんが一番印象深いですね。俗に“シュヴァルツシモ”って言うんです。小さな声で「おっきいんです、おっきいんです」と、身振り交じりでおっしゃる。「フィガロの結婚」序曲でも「おっきいんです、おっきいんです」。音が小さくなって、ついに音にならずスカットとなると、「丁度いいです」。音出ていないのに、と思うわけです。でも、弦楽器の音からファゴットが浮いて聞こえちゃだめなんだと思いました。練習もしつこかったですね。終わったと思ったら、「初めから」と。また終わったと思うと「ビギニン」「アゲイン」。シュヴァルツさんは、こうでなければいけないという部分がはっきりしていて、そこからはみ出すことを許さない人でした。

—印象に残る演奏会は

岩城さんがやった、武満さんだけの演奏会ですね。岩城さん自身もたぶん客は入らないだろうなと思ってたろうし、事務局長もこんなんで客が呼べるわけがない、東京の音楽関係者は「あ～あ、札幌も終わりか」と言っていたのに、あけてみると満員でした。あれは本当にびっくりしました。武満さんもこの時いらして、演奏会場が満員になるとは思っていなかったようです。音を出している方としては、武満さんの曲は怖いんです。その頃は、武満さんの澄んだ音・透明感のある音が非常に綺麗だと思っていましたが、深くは理解できてなかったですね。リハーサルのときに、武満さんからいろんな事を教わったわけですが、メンバーが一所懸命その音を出そうとしているのが伝わったようで、札幌をえらく気に入ってくれました。

—休日はどうのように過ごされていますか

最近、魚釣りに行ってます。海にルアーをもって、ソイヤガヤなどを釣りに行きます。帰りが遅いので女房が良い顔をしません。大きいのが釣れると刺身にして、うまいですよ。ルアーなら、えさ代がかからなくて安くつくかと思いましたが、ルアーが高くて数もたくさん増えてきて、もう破産しそうです。でも、身体には良いみたいで、あちこちガタがきています。リハビリを兼ねてやっています。握力も上がりましたよ。

—札幌くらぶにひとこと

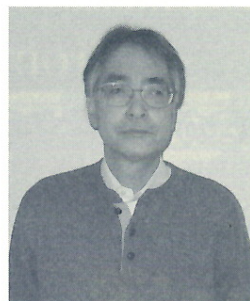
オーケストラってすごくわがままな集団だと思います。いろんな支援がないとやっていけない。金銭的な支援もそうですが、多くの方々に聞いていただけるのが一番なのです。たくさんの方が演奏会場に来ていただくことで、様々な力をいただけるので、どうぞこれからも末永く演奏会場に足をお運び下さい。

(松尾英樹)

Player's talk 2

第2ヴァイオリン

とがし
富樫 耕



—ご出身は

小樽です。10歳の時に手稲町に引っ越しました。当時はまだ、札幌市ではなかったです。

—楽器との出会いは

父がクラシック音楽好きでした。それで、姉たちもピアノをやっている、5・6歳のときだったと思うけど、父が何かやらせた方がいいということで、ヴァイオリンを始めました。小学校の担任の先生がピアノが弾けたので、ヴァイオリンの先生に習いに行く前に週何回か夜の音楽室で、ピアノにあわせてもらったりしていました。その後、札幌の先生に変わったのですが、電車に乗るのが楽しくて。始めた頃はまだSLの時代で、まもなくディーゼル機関車が始まりました。週2回通っていましたが、それがディーゼル機関車だと、嬉しくて。札幌駅で路面電車に乗り換えるのですが、それもまた、楽しかったです。

—音楽の道へ進もうと思ったのは

中学の頃から漠然と、ずっと思っていました。高校でいよいよ進路を決めるとき、音楽でいこうと。それで、教育大へ進みました。丁度、私が中学のときに札幌が出来たんです。実は、私の先生は荒谷正雄先生（札幌名誉創立指揮者）だったので、ずっと、身近に感じていました。高校の時には札幌に研究生制度があり、研究生としてよく札幌で弾かせてもらっていました。演奏会で弾いていたので、ちゃんとギャラも貰えました。高校生としては結構大金で、それで、世界旅行記みたいな世界各国を紹介した本を買うのが楽しみでした。教育大では、ヴァイオリンを井上先生（札幌第2ヴァイオリン副首席・井上澄子さんのお父さん）に師事しました。フリーでアンサンブルをやったり、たまに、札幌に出させてもらったりしていました。卒業して、どうしようか迷っていたときに、事務局長の谷口さんに

札幌を受けてみないかと声をかけられました。それで、74年にオーディションを受けました。シュヴァルツさんの最後のオーディションだったと記憶しています。

—入団してご苦労はありましたか

たくさんありますが、なにせ、やる曲やる曲が初めてのものですから。でも、うまいことに若いから、勢いであまり苦しめずに出来たと思います。当時はあまり思わなかったのですが、今に比べたら時間もありません。スケジュール表も空欄が結構ありましたから。入団した頃は、シュヴァルツさんから岩城さんに代わる時だったので、やる曲はガラッと変わりましたね。シュヴァルツさんはオーソドックスなドイツものが中心でしたが、岩城さんは日本人の作曲家や、近・現代のものも取り上げていました。

—今年は“としおとこ”だそうですね

今、ヴァイオリンに4世代のねずみ年がいるんです。一昨年くらいから、自分がやめる前に若い人が入ってくれたら、と思っていたら本当になって。それで、ヴァイオリンセクションのねずみ年の方に、人形をプレゼントしました。かわいい人形で、おじさんが手にするのは恥ずかしかったのですが、6人いるので6個買いました。みんな、ちゃんとケースに付けてくれています。ファーストに1人、セカンドに5人いるんです。セカンドは総勢10人ですから半分いるわけです。曲によって8人のときなどは、ねずみだらけになっちゃうんです。

—今迄で、思い出深い人は

真っ先に思い出すのは、ピアニストの長岡純子さん。うまい方はたくさんいらして、音の綺麗な方も、表現力豊かな方もいっぱいいるけど。言葉ではうまく言えませんが、とてもすばらしかったです。指揮者では、小沢征爾さんが

来てくれて、道内何ヶ所かまわりました。印象的だったのは、「一対一で僕と音楽してくれ」「あんたと僕とで音楽をやってくれ」と言われて、若かった自分にはインパクトがあって、心強かったです。もう1人、シュヴァルツさんが、お辞めになってから何年か後に札幌に来てくださったときの「新世界」が忘れられません。新しいところでは、エリシユカさん。本当に気持ちのよい演奏会でした。

—印象に残る演奏会は

旅行はいつでも楽しいですね。知らない所に行くんだったら、どんな田舎でも喜んで行っちゃう。学校の音楽教室では、本当に田舎にも行きました。こんな仕事をしていなければ、絶対に行かないだろうという所にも行けて。そういえば、かなり昔ですが演奏中に電気が消えてしまったことがありました。場所は忘れましたが体育館で、「田園」の第5楽章、最後の最後に真っ暗になって、セカンドなので訳分からなくてメロディを弾いてしまったということがあります。

—セカンドヴァイオリンの役割は

トップラインのメロディとベースライン、その間にいるのがセカンドヴァイオリンとヴィオラなんです。中身を充実させる役割、音楽的にも響きの面でも。セカンドがタツ、タツ、タツ、タツとリズムを刻むのも旋律の動きと同じように、歌いやすいようにしなくちゃいけないんです。イチ、二、イチ、二と規則正しくやったのではダメなんです。苦労といえば苦労なんです。楽しみたいと音楽にならないですね。支えてる。

—札幌くらぶにひとこと

いつも本当にありがとうございます。札幌のサポーターとして今後ともよろしくお願いします。

(松尾英樹)

総会が開催されます

08年度の総会は、5月24日（札幌定期B日程）にキタラ2階の大会議室で開催します。定期演奏会の前に総会、終了後に恒例の楽員さんと札幌くらぶ会員との交流会を予定しています。今回は、役員改選（2年ごとに改選）や会員拡大のための提言等、重要な議案があります。会員の皆様のご出席を例年以上にお願いします。詳細は後日、あらためてご連絡します。

JOFCについて反響がありました

前号でお伝えした日本プロオーケストラファンクラブ協議会（JOFC）第1回総会について、会員の方よりご意見をいただきました。JOFCは札幌くらぶが各フ

ンクラブに呼びかけて組織しました。JOFCについて、ご意見、ご要望、感想などお寄せ下さい。

札幌くらぶ会員より

拝啓 貴クラブが、仙台・山形・群馬・広島、更に名フィルの同様サポーターとの交流を深めている由、まことに有意義で心強く思う。そりゃ自分達の街のオケが一番だけれど、他都市のオケサポから学べるのがあったら遠慮なく学ぶのが良い。不思議なのは九響サポの言及がないこと。私は1回しかアクロス（福岡の音楽ホール）体験がないのですが、あそこも札幌同様の開演前のロビーコンサートがあり、サポーターが定期の印刷物を出していたように記憶しています。自分達の街のオケを支援することに誇りを持つ、そんな仲

間が増えた方が楽しいに違いない。九響支援者（サポーター）とも仲間になりたいではないか。（我々もまた、Jリーグに似て単なる愛好者ファンというより支援者サポーターを名乗った方がより実態に近いように思う。）

（会員#1068600）

札幌くらぶより

九響のサポーター組織の件についてはJOFC発足時の調査では「ない」との回答を受けていました。今回ご意見をいただき、直接事務局に電話をし、再度確認しました。やはり現時点ではないということです。出資者（団体）で組織している後援会はあるということですが、しかしファン組織ではないということです。また、印刷物については、以前、個人で発行していたことはあるが、今は発行していないという回答を得ました。

札幌くらぶ会員特典

会員の特典は以下のとおりです。有効にご利用下さい。
また、特典を提供してくれるお店をご存知の方はご一報ください。

- 札幌交響楽団定期演奏会、名曲シリーズのチケットの10%割引ただし、キタラチケットセンターのみの取り扱いとなります。他のチケットセンターでは適用されません。また、電話での予約は出来ません。窓口で会員証を提示した上でチケットをお求め下さい。

- テラスレストラン・キタラ 飲食10%割引。ただし、一部の商品を除きます。また、グラスワインのサービスがある場合もありますので、あわせて係員にお尋ねください。
- キクヤ楽器店（狸小路3丁目） 楽器以外の商品10%割引。ただし、店内に限ります。キタラ等

の出店では適用されません。

- スナック「りつこ」（南6西3第2桂和ビル2F） 「札幌くらぶ溜り場」として特別価格2,500円（税込）でウイスキー、焼酎2時間以内飲み放題（おつまみ、カラオケ付き）
- ダイニング『イル・ネージュ』（北区北12条西1丁目 北12条パークマンション1F） 札幌くらぶと申し出てください。シェフからの素敵な特典があります。歓送迎会にご利用ください。ご予約・お問合せは ☎（011）717-2555まで。

意見・感想をお寄せ下さい

会員の皆さんからの投稿をお待ちします。内容は問いません。特に期限はありませんが、4月30日までに投稿して下さった方の中から、抽選でプレゼントを差し上げます。

なお、当選は商品の発送をもってかえさせていただきます。

プレゼント商品

- 5月の札幌定期演奏会のS席チケット（3名様）
（座席の指定はできません）
- 一戸哲さんのサイン入り色紙（2名様）
- 富樫耕さんのサイン入り色紙（2名様）
投稿は、ハガキ、封書またはEメールでお送り下さい。なお、そ

の際必須事項を必ずお書き下さい。

必須事項

住所・氏名・会員番号・希望のプレゼント商品の番号。なお、匿名希望の方は、「匿名希望」または「ペンネーム」をお書き下さい。（あて先は会報の題字の下にあります）

編集後記

先日、あるコンサートでの出来事です。よくあることですが、最後の曲の演奏が終わったとたん、拍手が起こりました。盛り上がりつつ終わる曲ならまだしも、静かに、静かに終わっていく曲なのに。この日は特にそれが気になったのですが、理由は拍手が1人だけだったのです。

少し間をおいて盛大な拍手となりました。常々、演奏が終わった後の少しの余韻を楽しみたいと思っていた私は、このことと同じように思っている人が案外多いんじゃないかと思いました。1人拍手した人は、かなり気まずい思いをしたことでしょう。演奏後、間髪をいれずに拍手やブラボーをする人は（私も若い頃はそうだったかもしれない）それなりの理由もあるのでは

うが、ひと呼吸おいて拍手をしてもらいたいと思います。

さて、42号が出来上がりました。今回は新しいシーズンに向けて尾高音楽監督に熱く語っていただきました。皆さんに思いが届いたでしょうか。皆さんからのご意見もお待ちしています。気軽にどしどし投稿してください。この会報を皆さんの声でいっぱいにしましょう。

（松尾英樹）